

終業式

2025. 7. 18

今日で1学期が終わる。明日から34日間の夏休みに入る。34日間というと長い。だが、以前は36日間あった。いつの間にか、夏休みが短くなっている。これは、福島市の話である。場所が変われば、事情は変わる。

昔からずっと疑問に思っていることがある。8月末になる。福島では、すでに2学期がスタートしている。ところが、テレビのニュースでは、夏休み最後の〇〇とか、夏休みの宿題に追われる子どもたちといった映像が流れる。8月いっぱい夏休みなのである。

では、夏休みのスタートが福島よりも遅いのかというと、変わらない。福島よりも夏休みが10日近く長い。年間の授業日数も、福島では200日を超えるが、他では190日ほどである。これで、福島の学力が少しでも高ければ、多少は納得がいく。だが、そんなこともない。

どうして、こうなのだろうか。本気で研究したことはない。研究したとしても変わらない。県民性なのか。いったいどんな県民性だというのか。無理をして、他県に合わせる必要はないが、果たして、夏休みが短いメリットはあるのだろうか。

34日だろうが、43日だろうが、だいぶ長い休みになることには変わりはない。4月から始まった1学期は、どんな期間になったのだろうか。それは、一人一人の子どもによって違ってくる。長い休みに入ることで、1学期のことをリセットできる。気持ちを新たに、2学期を迎えることができる。

終業式は、1学期の最終日に行われる。区切りをつけるセレモニーである。ちょっとした時間でも、過ぎ去ってしまった1学期のことを振り返るには、いいのかもしれない。そして、1か月以上にもなる夏休みを有意義なものにするには、それ相応の計画というものが必要になる。学校に行っていれば、日中は過ごし方のプログラムが決まっている。夏休みになると、急にまとまった時間を自分に預けられる。時間があるからといって、いろいろなことができるとは限らない。

人というのは、時間というものを無駄にするのが、けっこう得意なのである。夏休みになると、時間的な自由が手に入るような気になってしまう。だが、自由な時間を自分で管理するのは、容易なことではない。よほど、自分に主体性や自主性、自己管理能力が備わっていなければ、せっかくの時間は、あっという間に過ぎ去っていく。それが現実である。

終業式という場に臨むことで、心を整える。自分にスイッチを入れる。そういうことだろうか。ある県では、校長先生が夏休みの期間を決めるのだという。自分ならば、どうしただろうか。けっこう迷うように思う。それぞれの34日間が、実りあるものになるよう願っている。